

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

| | | | |
|---|----------|----------------|------------------------------|
| 課題番号 | 18HP2001 | 事業期間 | 平成30(2018)年度～ 令和4(2022)年度 |
| 取組の名称 | | 団体名称 | 代表者名 (職名・氏名) |
| The Horticulture Journal の質的強化 と国際的認知度向上による更なる国際 情報発信強化のための取組 | | 一般社団法人 園芸学会 | 会長・金山 喜則 |
| 学術刊行物の名称 | | | (略称) |
| The Horticulture Journal | | | Hort J |

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

| 評価 | 評価基準 |
|--|--|
| A+ | 当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。 |
| A | 当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。 |
| ○ A- | 当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。 |
| B | 今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。 |
| C | 今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。 |
| (評価意見) | |
| <p>国際誌 The Horticulture Journal の質的強化、国際的認知度向上、編集体制強化を目指し、年1回の特集号発行、ターゲット型プロモーション及び外国人編集委員・査読者の増員に取り組んできたことは評価できる。</p> <p>なお、具体的な数値目標として、学会は次の6項目の改善を設定している。</p> <p>① 年間投稿件数、②年間掲載海外論文数、③年間論文アクセス数、④インパクトファクター、⑤外国人編集委員の割合、⑥外国人査読者の割合</p> <p>これらのうち、②年間掲載海外論文数及び③年間論文アクセス数はすでに最終目標を超えているが、①年間投稿数、④インパクトファクター及び⑤外国人編集委員の割合については中間目標にやや届いておらず、⑥外国人査読者の割合については中間目標が20%のところ10.3%にとどまっている。課題終了時にはこれらも目標を達成できるよう、更なる努力が望まれる。</p> | |